

神戸で市民公開講座 大腸がんには負けないためには

食生活の欧米化など生活習慣の変化に伴って、大腸がんを患う日本人が増加している。どうすれば大腸がんを予防することができるのか。もしなってしまった場合には、どのような治療方法があるのか。最新の治療方法などについて学ぶ市民公開講座「大腸がんには負けないためには—これだけ知ればもう安心」(神戸新聞社主催、中外製薬協賛)がこのほど、神戸新聞松方ホールで開かれた。大腸がん治療の最先端で活躍する医師の話に、訪れた人たちは熱心に聞き入っていた。

大腸がんは検診で予防

解説 大腸がんとは

神戸大学大学院 食道胃腸外科教授

掛地 吉弘氏



かけじ・よしひろ 1987年、九州大学医学部卒。九州大先端医工学診療部、同大消化器・総合外科助教授などを経て、2012年から現職。

食の欧米化で患者急増

日本人の3人に1人はがんで死んでいる。部位別でいうと、男性でこれまで最も多かった胃がんが減り、大腸がんが増加している。女性も乳がんに次いで大腸がんが多くなり、死亡率を見ると女性では大腸がんが1位になっている。日本人の3人に1人はがんで死んでいる。部位別でいうと、男性でこれまで最も多かった胃がんが減り、大腸がんが増加している。女性も乳がんに次いで大腸がんが多くなり、死亡率を見ると女性では大腸がんが1位になっている。

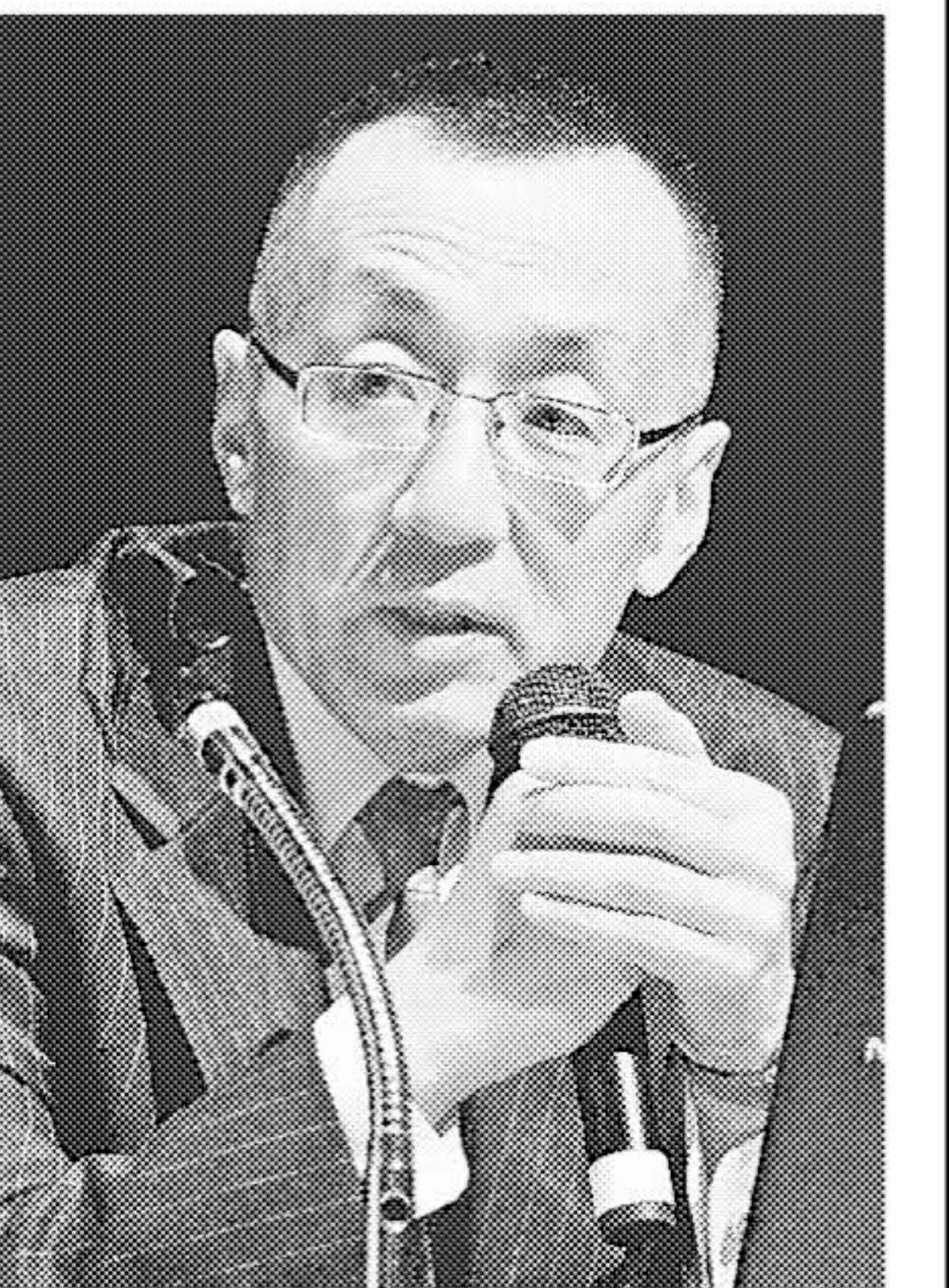
出るよう心掛ける。適切な運動をする。脂肪食を控えめに。大腸がんは、他の消化器系がんと比較しても、治療成績が良いがんだ。さらに検診によって早期発見につながることもできる。検診では2日間、便潜血を調べる。これで陽性が出ると内視鏡検査を行う。そのうち大腸がんと診断されるのは3〜5%。その半分以上は早期がんの段階だ。また、大腸がんは診断された人の20%は、検診でがんが判明している。早期に見つければ命が助かる可能性も高くなる。定期的に検診を受けて早期発見、早期治療を心掛けたい。

正しい生活習慣が重要

Q 大腸ポリープは何から摘出すべきか。加藤 ポリープが腫瘍であれば、5mmを越えたら摘出というのが一つの目安。Q 肛門を温存するかどうかの境目は。小高 肛門機能を残すための筋肉よりも、がんが深ければ残せない。大腸の専門医の判断が必要。最大のポイントは早期発見だ。Q 抗がん剤の副作用への対応法は。医師は使いたがると思う。Q 便潜血検査は陰性だったが、内視鏡でがんが見つかった。検査の信頼性は。掛地 全てのがんが出血しているわけではない。陽性反応が出ないものも。一つの手掛かりにはなる。Q 大腸がんの手術を受けて5年目になる。食事面で気を付けることは。辻 自分の好きなものを食べ、ストレスをかけず、他の病気にならないように気を付けるのがいい。Q いい病院の探し方を知りたい。遠くてもいい先生か、近くがよい。辻 私は近くがいいと思う。近所の掛かり付け医にまず相談し、必要があれば専門医を紹介してもらおうのがいい。Q 重要なのは検診を受け、早期発見して、しっかり治療すること。治療は医師が決めることではない。

兵庫医科大学 下部消化管外科主任教授

富田 尚裕氏



とみた・なおひろ 1980年、大阪大学医学部卒。コロンビア大がんセンター研究員、関西労災病院消化器外科部長などを経て、2007年から現職。

関西労災病院 下部消化器外科部長

加藤 健志氏



かとう・たけし 1989年、関西医科大学卒。箕面市立病院外科部長・内視鏡センター長、がん診療推進部長などを経て、2011年から現職。

佐野病院消化器センター長

小高 雅人氏



こたか・まさひと 1997年、高知医科大学卒。高知県立中央病院、国立がんセンター東病院内科部長などを経て、2007年から現職。

神戸市立医療センター 中央市民病院がんセンター長、腫瘍内科部長

辻 晃仁氏



つじ・あきひと 1990年、岡山大学医学部卒。高知県立中央病院内科医長、高知医療センター腫瘍内科科長などを経て、2011年から現職。

講演1 体にやさしい大腸がん手術療法

大腸がんの手術は大きく分けて、内視鏡などで行う局所切除と、腹腔鏡手術や開腹手術で行う腸管切除がある。カイトラインでは、0期と1期が内視鏡治療の対象。がんが粘膜、または粘膜下層に少くだけ及んでいる状態だ。この状態だと、ほとんど他への転移がなく、内視鏡での切除で治療することができ。最近では、新しく導入された粘膜下層剥離手術(ESD)によって、大きなものでも根が深くなければ内視鏡手術で切除することが可能になり、適応の幅が広がった。

患者さんの生活の質を維持したい、がんを再発させたくない、というのが大腸外科医の願いだ。そのために、腹腔鏡手術の積極的な導入、肛門を残す手術に取り組んでいる。また、術後に化学療法を行うことで再発率を低くする治療を行う。直腸がんの場合、がんの場所によっては肛門を含めて腸を切除する。そして人工肛門を付けて便をためる袋を装着することになる。また、人工肛門は管理に手間が掛かり、臭いや漏れ、接続部のただれに悩まされるケースが多い。外出に不安を覚える人も少なくない。

抗がん剤を使った治療法というところ、つらい治療のイメージがあるが、今は10年前とは時代が違う。今から10年前は、がんを良くしてくれるが、時に患者を悪くすることもあった。しかし、上手に使う薬は、副作用を減らすことが出来る。説明は家族や友人と一緒に時間をかけて聞くこと。そしてセカンドオピニオンも積極的に聞きに行くこと。さらには、大事な検査の日には家族と一緒に受診し、説明を受けること。よく経験されるのは口内炎や吐き気、下痢、貧血、そして副作用は決して我慢せず、相談すること。大腸がんには、確立された標準治療がある。最新の治療を希望している。抗がん剤の副作用のために入院しないという人も、最新の治療を希望している。抗がん剤の副作用のために入院しないという人も、最新の治療を希望している。

講演2 肛門を残す手術療法と術後の化学療法

直腸がんの場合は、肛門を絞める括約筋を全て切除してしまうと人工肛門が必要になるが、最近の90%以上で永久人工肛門を必要としない。最近では腸管切除の場合でも、腹部を切除せずに数か所の穴を開けるだけで手術を行う腹腔鏡手術が主流になってきた。腹部に4、5カ所開けた小さな穴から、腹腔鏡(カメラ)と長い鉗子を入れ、モニターの画面に患部を映して切除する方法だ。腹部を15、20センチ開腹手術に比べて、傷が小さくてすむだけでなく、開腹しないので腸が乾燥し、腸管が癒合しやすくなる。早期に発見して、早期に治療を受けることが出来る。早期に発見して、早期に治療を受けることが出来る。

だ。ガスや便が漏れるなどの機能障害は起こるが、肛門温存のために一時的に人工肛門を経験した人の98%は「おしりから排便する方がいい」としている。肛門に近い直腸がんの場合でも、肛門温存をあきらめず、セカンドオピニオンで専門医を受診してほしい。メリット、デメリットを理解した上で、納得のいく治療を受けることが大切だ。手術しても、目に見えないがんが残っている場合、消化器障害や血液状態に影響を与える副作用があるが、副作用を抑える薬を服用する。特にリンパ節の転移が見られる患者さんには、自分の病気をよく理解し、説明を聞き、セカンドオピニオンを得ることが出来る。具体的には、3期、4期の患者さん100人中、1割は手術を受けてほしい。

抗がん剤は確かに毒薬の一面もある。がんを良くしてくれるが、時に患者を悪くすることもあった。しかし、上手に使う薬は、副作用を減らすことが出来る。説明は家族や友人と一緒に時間をかけて聞くこと。そしてセカンドオピニオンも積極的に聞きに行くこと。さらには、大事な検査の日には家族と一緒に受診し、説明を受けること。よく経験されるのは口内炎や吐き気、下痢、貧血、そして副作用は決して我慢せず、相談すること。大腸がんには、確立された標準治療がある。最新の治療を希望している。抗がん剤の副作用のために入院しないという人も、最新の治療を希望している。

9割超が腹腔鏡手術に

大腸がんの手術は大きく分けて、内視鏡などで行う局所切除と、腹腔鏡手術や開腹手術で行う腸管切除がある。カイトラインでは、0期と1期が内視鏡治療の対象。がんが粘膜、または粘膜下層に少くだけ及んでいる状態だ。この状態だと、ほとんど他への転移がなく、内視鏡での切除で治療することができ。最近では、新しく導入された粘膜下層剥離手術(ESD)によって、大きなものでも根が深くなければ内視鏡手術で切除することが可能になり、適応の幅が広がった。

生活の質保ち再発防ぐ

患者さんの生活の質を維持したい、がんを再発させたくない、というのが大腸外科医の願いだ。そのために、腹腔鏡手術の積極的な導入、肛門を残す手術に取り組んでいる。また、術後に化学療法を行うことで再発率を低くする治療を行う。直腸がんの場合、がんの場所によっては肛門を含めて腸を切除する。そして人工肛門を付けて便をためる袋を装着することになる。また、人工肛門は管理に手間が掛かり、臭いや漏れ、接続部のただれに悩まされるケースが多い。外出に不安を覚える人も少なくない。

抗がん剤を使った治療法というところ、つらい治療のイメージがあるが、今は10年前とは時代が違う。今から10年前は、がんを良くしてくれるが、時に患者を悪くすることもあった。しかし、上手に使う薬は、副作用を減らすことが出来る。説明は家族や友人と一緒に時間をかけて聞くこと。そしてセカンドオピニオンも積極的に聞きに行くこと。さらには、大事な検査の日には家族と一緒に受診し、説明を受けること。よく経験されるのは口内炎や吐き気、下痢、貧血、そして副作用は決して我慢せず、相談すること。大腸がんには、確立された標準治療がある。最新の治療を希望している。抗がん剤の副作用のために入院しないという人も、最新の治療を希望している。

抗がん剤 飛躍的に進歩

抗がん剤は確かに毒薬の一面もある。がんを良くしてくれるが、時に患者を悪くすることもあった。しかし、上手に使う薬は、副作用を減らすことが出来る。説明は家族や友人と一緒に時間をかけて聞くこと。そしてセカンドオピニオンも積極的に聞きに行くこと。さらには、大事な検査の日には家族と一緒に受診し、説明を受けること。よく経験されるのは口内炎や吐き気、下痢、貧血、そして副作用は決して我慢せず、相談すること。大腸がんには、確立された標準治療がある。最新の治療を希望している。抗がん剤の副作用のために入院しないという人も、最新の治療を希望している。